

説明文・論説文(1)

送りがない

今回の読解テーマ

話のつながり①



知る



考える



問 次の①～③の○に適切なひらがなを入れて、接続語を完成させなさい。○の数は文字数を表します。

前後の内容をつなぐことば

||

接続語

どういつながりか？

彼女はだれにでも優しい(からだ)。

なぜなら

前のことからの理由

彼女の悪口を言う人はいない。

前のことから

彼女の悪口を言う人はいない。

だから

結果

彼女はだれにでも優しい。

原因

③	②	①
おばあさんは川へせんたくに、ま○、おじいさんは山へ柴刈りにいきました。	川上から大きな桃が流れてきました。さら○、大きなみかんや巨大なメロンまで流れてきました。	川上から大きな桃が流れてきました。す○○、おばあさんが川でせんたくをしていました。す○○、川上から大きな桃が流れてきました。


答え
①
②
③

今回のまとめ

てんか 添加	へいりつ 並立	ぎやくせつ 逆接	じゆんせつ 順接
<p>例 弟が泣き出した。 さらに 兄まで泣き出した。</p> <p>前のごとから 接続語 前に付け加える</p> <p>さらに 兄まで泣き出した。</p> <p>前のごとから 接続語 前と対等のごとから</p>	<p>例 人参、ピーマン、なす、 および トマトが苦手です。</p> <p>前のごとから 接続語 前と対等のごとから</p> <p>また・および・ならびに</p> <p>前のごとから 接続語 前と対等のごとから</p>	<p>例 一生懸命勉強した。 だが 残念な結果となった。</p> <p>前のごとから 接続語 前と逆、あるいは くいちがうごとから</p> <p>だが 残念な結果となった。</p> <p>前のごとから 接続語 前と逆、あるいは くいちがうごとから</p>	<p>例 一生懸命勉強した。 だから 志望校に合格した。</p> <p>前のごとから 接続語 結果・結論</p> <p>だから 志望校に合格した。</p> <p>前のごとから 接続語 結果・結論</p>
さらに・そして・しかも・それから・そのうえ など	また・および・ならびに など	だが・しかし・けれども・ところが・でも など	だから・すると・そこで・したがって など

Q 「接続語」は何をつないでいるの？

A 接続語は「単語と単語」や「文と文」「段落と段落」など、いろいろなままとまり同士をつないでいます。どのままとまりをつないでいるのか、必ず確認しましょう。



てんかん 転換	せんたく 選択	せつめい 説明
<p>例 もうすぐ授業が 終わる。</p> <p>前のごとから 接続語 ところで</p> <p>ところで・さて・では・それでは</p> <p>今日の給食のメニュー はなんだろう。</p> <p>話題を変えたり 限定したりする</p>	<p>例 答えの文字は、B</p> <p>前のごとから 接続語 あるいは</p> <p>または・あるいは・もしくは・それとも</p> <p>2Bの鉛筆で記入すること。</p> <p>前のごとからと比べ たり、選んだりする</p>	<p>例 夢がかなった。</p> <p>前のごとから 接続語 なぜなら</p> <p>たとえば・なぜなら・つまり・すなわち</p> <p>大変な努力をしたからだ。</p> <p>例や理由、言いかけ によって説明する</p>
など	など	など

基本問題

◆次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

わたしたちの国は、はばが二〇〇キロメートルぐらいで細長く、それに国土のおよそ六〇パーセントが山地です。わたしたちが住みやすい平地の広さは、山のふもとや台地までくわえても、国土の二九パーセントにすぎません。地図の上で平地をさがしていきますと、山にかこまれた盆地でも、海に面した平野でも、かならずといていくくらい、その中央をつらぬいて川が流れています。

5

また、川の流れが山からでたところから下流に向かって、ちようと扇形の平地になっています。このような平地のことを扇状地といいます。川が山からはこんできた石や砂などが、つもりつもってできあがったものです。いまの川は、水の流れる道すじも自然のままではなく、人造の堤防をきずいたりして、人間の手がくわえられています。ほんとうは、この扇状地には、山地からの水の流れがいきおいにまかせ、大小いくつもの川を、いっぱいに広げているところなのです。扇状地は、川がつくり、川が流れる場所であって、①川の領地といえるところなのです。

15

わたしたちの国では、いまから二三〇〇年くらいまえ、

*縄文時代の終わりごろに、イネを中心とする農業がはじまったといえます。イネは水生の植物ですから扇状地のなかの湿地をえらんで栽培されました。イネをそだてるのによい湿地がないときは、池をつくり、そこから水を引くなど、いろいろなくふうもおこなわれました。こうして、水田（田んぼ）がつくられるようになりました。水田が広がるのと同時に、扇状地には、人びとの住む家がたてられていきました。人間は、川の流れる道すじを変えたり、堤防をつくったりして、自分たちの住む場所を広げていきました。

25

しかし、もともと川の領地であるはずの扇状地ですから、台風などの豪雨で、ひとたび川のようにすが一変し、あれるるうことになれば、たちまちのうちに、扇状地は洪水におそわれ、家や田畑はそのたびに流されてしまいました。流されると、人びとは*山ろくの丘に家をうつすのですが、また、何年、何十年とたつと、低地にまで家がたつようになります。そして、ふたたび洪水におそわれるのでした。②わたしたちのくらしは、これをくりかえしてきたといえます。

35

③わたしたちにとって、この国に住む以上、洪水は地震とともにさけることのできないものだといえます。第一に、世界でも有数の雨の多い国です。A、台風のおり道になっていきます。B、雨がただ多いだけでなく、一時

40

間のあいだにふる雨の量、C一日の雨の量が、ずばぬけて多いのです。その雨の水は川となつて、急傾斜の地面をながれるのですから、水は、いっぺんに扇状地にあふれてきます。

45

④じつはもうひとつ、洪水となる原因があつたのです。

川の*みなもととなる山地のようすです。山地が、ゆたかな森林におおわれていけば、強い大雨も、あるていど木々がふせいでくれます。水の流れも、そのぶんだけゆるやかになります。D、むかしから人びとは、家をたてたり、

50

鉄や食塩をつくる燃料にしたりするために、どんどん木を切りたおしていきましたので、山地からは、森林がきえていきました。森林がなくなつた山地は、強い大雨にたたかれて、山くずれをおこし、大量の土砂や石ころが、水といっしょに扇状地をおそい、洪水による被害をいっそう大きくしました。

55

日本の川では、中くらいの洪水は、六年に一度くらいおこるといわれています。ものすごい大洪水は、五〇年に一度とか、一〇〇年に一度といわれています。みなさんがいま見ている川は、とても広い川原に、水がほんのすこし流れているだけです。E、

60

⑤なぜあんなに広くしておくのだらうと、疑問に思うこともあるでしょう。あいていてもつたいないなど、思うこともあるでしょう。水の流れがふだん少ないのは、洪水をふせぐため上流にダムをつくり、

農業用水路に流したりして、水の流れを制限していることもありすが、まえに書きましたように、いつかはかならずくる大洪水のためには、あれだけの広さをとっておかないと、たいへんなことになるのです。

(大竹三郎「橋をかける―川と水とくらし」〈大日本図書より〉)

*縄文時代：日本の歴史で、一万三〇〇年前から二三〇〇年前ごろまでの時代。石器でけものや鳥をとりに、縄やむしろの編み目のような模様のある土器を使っていた。

*山ろく：山のふもと。

*みなもと：ここでは、川の水の流れるもと。

問一 ― 線①「川の領地」とありますが、

― 「川の領地」とはどんな場所を指していますか。一語でぬき出して答えなさい。

2 ― 1で答えた場所は、なぜ「川の領地」と言えるのですか。適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大小さまざまな川が流れる場所だから。
- イ 人の手がくわえられている場所だから。
- ウ 川によってつくられた場所だから。
- エ イネの栽培が始まった場所だから。

発展問題

◆次の文章は、筆者が子どもたちを相手に「作文教室」を開いていた時の経験けいけんをまとめたものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

まずは次のような、あまりうまくない作文を読んでもらいたい。①うまくないと言うより、はつきり言うど、へたてすぞ。

えんそくのこと

三年生男子 5

きのう、えんそくにいきました。さいしょにちかてつのところまであるきました。ちよとつかれました。

それでやとつきました。

それでさいしょにすいぞつかんにいきました。それですいぞかんの3かいにいったらつくりもののペンギンのたまごにさわれるところがありません。

10

それですぐにつくりもののペンギンのたまごにさわってしたにいきました。

それでもういつかいたにいったらヒトデがさわれるところがあつたからヒトデをさわつたらうごくかなあとお

15

もつたらうごきませんでした。それでさわつたあとてをあらつてからしたにいつてすいぞつかんからでました。それではんこを2つおしました。

三年生にして、漢字がひとつもなしである。それから、実はこの子の字はかなり乱暴らんぼうできたない。これは何と書いているのだ、と解説かいどくしなければならぬところもある。

しかし、この子にだつて国語力がないわけではない。何があつて、何をしたかをちゃんと説明せつめいできているではないか。そして、妙みょうに上下の位置いちかんかく感覚がある子だなあというのが、三階へ行つて、下に行つて、下に行つて、というようにな書き方からうかがえる。

25

字が乱暴らんぼうだから、作文を書くのをいやがつているのだろうかと思つてしまふが、この子は六年生まで四年間も教室に通い、毎週毎週乱暴らんぼうな字で作文を書き続けたのだ。もちろん六年生の頃ころにはいくら漢字も見られるようになった。

30

この子は、体験たいけんを記録きろくする能力のうりよくはちゃんとあるのだが、うまく書くこうという欲よくが最後までなかつたな、というのが私の印象いんしょうだ。でもそれなりに、ゆつくりとは上達じやうたつした。

さてそこで、**A**。この作文が、ただしたことことをずるずると並ならべていくだけの、*典型的てんけいてきな、体験書きたいけん並ならべ作文だというのはすぐわかるだろう。だから*焦点しやうてんのし

35

ぼりきれていない、* 散漫な印象の作文になっているのだ。

そして、**B**。この子はまず、「さいしよに」で話を始める。そして、それ以後の文章をすべて、「それで」という接続詞せつぞくしでつないでいくのだ。

つまり**C**。知識ちしきとしてはほかの接続詞も知っているのかもしれないが、使えないのだから知らないのと同じだ。

「それで」しか接続詞せつぞくしがなければ、事例じれいをずるずると並べていく作文しか書けないのが当然だ。

接続詞せつぞくしとは、文章に* 論理的構造をもたらし、展開てんかいを生むものである。

たとえばの話、「ところが」という接続詞せつぞくしを使おうとすれば、それが使えるだけの話の展開てんかいが必要だ。当然誰たれも××だと思うところだ。ところが、そうではなかった、という論理構造ろんりこうぞうがないと「ところが」は使えないのである。

I を使うためには、××だけは例外れいがいだよ、という認識にんしきを持っていないといけない。

II を使うためには、二つの考えを並べらんだという意識いしきが必要だ。

III には、もうひとつつけ加えよう、という意識いしきが必要。

IV は、原因げんいんを書いたあとに、結果けつかけを書く時しか使えない。原因げんいんを書かないで書いていきなり、**IV** ぼく

は朝ねぼうをした。」とは書けないのである。

というわけで、接続詞せつぞくしを豊かに使うためには、いろんな思考法しこうほうができればならないのだ。説得力せつとくりよくのある語り方のために、話の展開てんかいに工夫くふうをするということだ。

でもって、そのことを逆から言ってみるならば、子供こどもの作文の中の接続詞せつぞくしを豊かにしてやれば、その作文は自然しぜんに複雑ふくざつな構造こうぞうを持つようになるということだ。

たとえば子供こどもに、「『しかし』」という接続詞せつぞくしを使った文章を書いてごらん」と言ってみるとしよう。それをやってみて、次のような文章は書けない。

「ぼくのたんにんの先生は山田先生です。しかし山田先生は男です。」

「しかし」を使おうとすれば、自然しぜんに次のような書き方になる。

「女の子は人形やままごとが好きで、おとなしくてすぐ泣くのがふつうです。しかし、ぼくの妹はぜんぜんそうではありません。」

② 「しかし」を使うためには、そのための構造こうぞうが必要であり、それを使おうと考えると、ちゃんとその構造こうぞうが出てくるのだ。

(清水義範「わが子に教える作文教室」より)

* 典型的な…最も特徴的(代表的)な

* 焦点…物事のいちばん大切な点

*散漫な：まとまりのない

*論理的構造：全体の筋道がきちんと立てられていること

問一 ――線①「うまくないところへたですぞ」とありますが、この作文が「へた」なのは、これを書いた「三年

生男子」にどのような姿勢が欠けているからですか。

最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 読んだ人が感動するような、良い話に仕上げよう。

イ 読む人があきないよう、出来事を短くまとめよう。

ウ 読んだ人の心に残る、印象的な話を作り上げよう。

エ 読む人のために分かりやすく、ていねいに書こう。

問二 文章中の **A** (35行め)、**B** (39行め)、

C (42行め) にあてはまる内容として最も適

切なるものを後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア この子は「それで」という接続詞の使い方を誤って

いるのだ

イ この子の使っている接続詞に注目してほしい

ウ この子の作文を分析してみよう

エ この子は「それで」という接続詞しか知らないのだ

問三 **I** **II** **III** **IV** にあてはまる接続詞 (接続語) とし

て最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答え

なさい。

I ア ただし イ さて ウ ところが

II ア しかも イ また ウ ところで

III ア それから イ すると ウ なぜなら

IV ア また イ だから ウ すなわち

問四 ――線②「『しかし』を使うためには、そのための

構造が必要であり」とありますが、「『しかし』を使う

ため」には、どのような論理の「構造」が必要ですか。

簡潔に答えなさい。

問五 「えんそくのこと」を書いた「三年生男子」に、上

手に作文を書くコツを教えてください。「君の作

文は『それで』ばかりを使って事実を並べているだけ

になっている。だから、」に続くよう、本文の内容に

従って、五十字以内で答えなさい。

問二 ——— 線② 「わたしたちのくらしは、これをくりかえ

してきた」とありますが、洪水によって、家や田畑が流されたあと、「わたしたちのくらし」は、どのようなことを「くりかえしてきた」のでしょうか。次のア～エを順番に並べ替えて答えなさい。

・洪水によって、家や畑が流される。



ア 住む場所を低い土地まで広げる。

イ 少し高い場所へ移り住む。

ウ 長い年月が過ぎる。

エ ふたたび洪水におそわれる。

問三 ——— 線③ 「わたしたちにとって、この国に住む以

上、洪水は地震とともにさけることのできないものだといえます」とありますが、「この国に住む以上」「洪水はさけることのできないもの」であるのはなぜですか。適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 世界でも有数の雨が多い国であるから。

イ 一年中、雨の量が一定しているから。

ウ 台風の影響で、一度にふる雨の量が多いから。

エ 山が多く、大雨の水が一気に扇状地に流れるから。

問四 文章中の [A] [E] に入る言葉として最も適切

なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。なお、同じ記号を二回以上使ってもかまいません。

ア ですから イ ところで

ウ ところが エ そのうえ

オ あるいは カ たとえば

問五 ——— 線④ 「じつはもうひとつ、洪水となる原因があつ

たのです」とありますが、この「原因」とはどんなことですか。文章中の言葉を使って四十五字以内で答えなさい。

問六 ——— 線⑤ 「なぜあんなに広くしておくのだろう」と

ありますが、この問いかけに対する答えを次のようにまとめました。 [] に入る言葉を、十三字でぬき出して答えなさい。

・ [十三字] にそなえるため。

送りがない

送りがないとは、ある語を漢字で書き表す場合、読みやすく、また、読みまちがいのないように、漢字のあとにつける「かな」のことです。

たとえば、「教る」では、「おしえる」と読むのか、「おそわる」と読むのかがわかりません。そこで、「教える」「教わる」と書いて、区別しているのです。

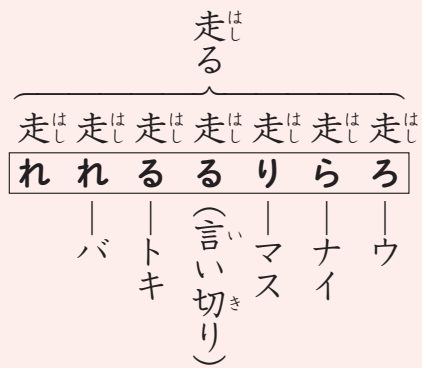
送りがないのつけ方は、言葉の性質によって原則が決まっていますが、例外も多いので、一つ一つの漢字についてしっかり覚えるようにしましょう。

1 語尾が変わる（活用する）言葉の場合

- (1) ふつうは、**変わる（活用する）部分から送る。**
- (2) 読みまちがえやすい言葉などは、その前から送る。

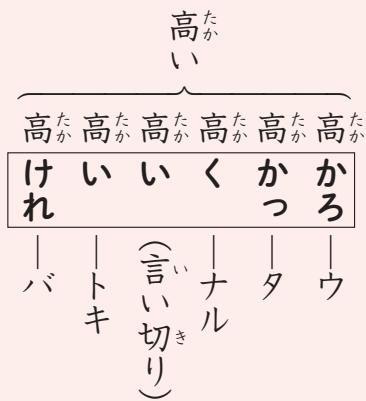
例 教わる・集まる・明るい・当たる

動詞



動作・作用・存在などを表す。
言い切りの形が、ウ段音で終わる。

形容詞



ものごとの状態や性質を表す。
言い切りの形が、「い」で終わる。

◎ 「〜しい」で終わる形容詞は「しい」の部分から送りがないにします。

例 楽しい・美しい・悲しい

形容動詞

ものごとの状態や性質を表す。
言い切りの形が、「〜だ」で終わる。



◎ 「か」「やか」「らか」「らか」がつくものは、その部分から

送りがないにします。
例 静かだ・温かだ・軽やかだ・明らかだ

2 語尾が変わらない (活用しない) 言葉の場合

名詞

「もの」や「こと」が「ら」の名前を表す。
主語になれる。

(1) 名詞は、原則として送りがないを付けない。

例 山・花・鳥・月・川・海

(2) 送りがないを付けないと読みあやまりやすいものには

例 辺り・勢い・後ろ・情け・幸せ・自ら・便り

(3) 活用のある言葉から変化してできた名詞 (転成名詞) の送りがないは、もとの言葉の送りがないのつけ方

にしたがってつける。

例 動き (動く) ・答え (答える) ・悲しさ (悲しい) ・

重み (重い) ・近く (近い) ・

例外 光 (光る) ・印 (印す) ・次 (次ぐ) ・組 (組む) ・話 (話す)

名詞以外の言葉

例 必ず・少し・再び・全く・最も・大いに・直ちに・来る・去る

3 複合語の送りがないは、もとの言葉のそれぞれの送り

がないのつけ方にしたがう

例 聞く + 苦しい → 聞き苦しい 田 + 植える → 田植え

ただし、次のような複合名詞は習慣として送りが

なを付けません。

例 木立・子守・試合・場合・番組・日付・物語・役割・夕立・割合・合図・植木・建物・立場・受付け

問一

次の各組の言葉のうち、送りなが正しくつづら
れているものを一つ選び、記号で答えなさい。

9
ウ イ ア
少すくない 少すくくない 少すくない

7
ウ イ ア
細こまかい 細こまかい 細こまかい

5
ウ イ ア
短みじかい 短みじかい 短みじかい

3
ウ イ ア
静しずかだ 静しずかだ 静しずかだ

1
ウ イ ア
表あらわす 表あらわす 表あらわす

10
ウ イ ア
生うまれる 生うまれる 生うまれる

8
ウ イ ア
聞きこえる 聞きこえる 聞きこえる

6
ウ イ ア
重かさなる 重かさなる 重かさなる

4
ウ イ ア
新あたらしい 新あたらしい 新あたらしい

2
ウ イ ア
外はずれる 外はずれる 外はずれる

21
ウ イ ア
苦くるめる 苦くるめる 苦くるしめる

19
ウ イ ア
直ただちに 直ただちに 直ただちに

17
ウ イ ア
分わかれる 分わかれる 分わかれる

15
ウ イ ア
考かんがえる 考かんがえる 考かんがえる

13
ウ イ ア
行おこなう 行おこなう 行おこなう

11
ウ イ ア
赤あかめる 赤あかめる 赤あからめる

22
ウ イ ア
改あらためる 改あらためる 改あらためる

20
ウ イ ア
温あたたかい 温あたたかい 温あたたかい

18
ウ イ ア
明あききらか 明あききらか 明あききらか

16
ウ イ ア
自みづかずから 自みづから 自みづかずから

14
ウ イ ア
合あわせる 合あわせる 合あわせる

12
ウ イ ア
教おそわる 教おそわる 教おそわる

問二

次の——線の部分を漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなも正しくひらがなで送りなさい。

- 1 荷物を棚たなにあげる。
- 2 おやつに大福をたべる。
- 3 太郎君たろうとはしたい間柄あいだがらだ。
- 4 改良かいはりようした道具かぐらをもちいる。
- 5 窓まどをあけて室温をさげる。
- 6 こまかいことにはこだわるな。
- 7 とぼとぼとひとりで家にかえる。
- 8 くじ引きで一等賞いっとうしょうがあたる。
- 9 かるやかな足どりで進む。
- 10 サケが川をのぼる。
- 11 自由研究のテーマをきめる。
- 12 借りていた本を友だちにかえず。
- 13 なごやかな雰囲気ふんいきだった。
- 14 感情かんじじょうが顔にあらわれる。
- 15 カヌーで急流をくだる。

問三

次の——線の部分を漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなも正しくひらがなで送りなさい。

- 1 金太郎きんたろうがいさましい姿すがたであらわれた。
- 2 あたりは黄金色こがねに輝かがやいていた。
- 3 東の空があからむ頃ころに出発した。
- 4 しみじみと京都きょうとの秋をあじわう。
- 5 そろそろたうえの季節きせつだ。
- 6 テレビのばんぐみ表を見る。
- 7 子猫こねこのなきごえが聞こえる。
- 8 忘れわすれずに、かならず届とどけてくれ。
- 9 うしろから三番目の席せきです。
- 10 たてものの正面さつめんから撮影する。
- 16 玄関げんかんから中うちにはいる。
- 17 かくしていた宝物たからものをみせる。
- 18 長びながびいていた試合しあいがおわる。
- 19 いそいで現場げんばにおかう。
- 20 やすらかな寝顔ねがお。